

(様式7-2)

会派政務調査活動・先進地調査等 精算書

令和7年2月10日

三田市議会議長 福田 秀章 様

本会派(私)は、会派政務調査活動・先進地調査に要した費用の精算結果を下記のとおり報告します。

会派名	市民とともに	代表者	
		議員名	大西 憲司
派遣者氏名	肥後淳三、山崎丈、橋本維文、大西憲司		
視察先	① 千葉県木更津市役所.....木更津市富士見 1-2-1 ② 千葉県大網白里市市役所.....大網白里市大綱 115-2 ③ 千葉県匝瑳市役所.....匝瑳市八日市場ハ 793-2		
調査事項 (調査目的)	① <u>オーガニックなまちづくりと学校給食への取組みについて</u> ② <u>デジタル博物館について</u> ③ <u>ゼロカーボンシティの取組み(ソーラーシェアリングの取組み)</u>		
日時	2025年 1月 14日(火曜日)～ 2025年 1月 16日(木曜日)		
支払金内訳	科目	支出額	摘要
	宿泊料	27,000	13,500円×2泊
	日当	9,000	3,000円/1日×3日
	鉄道賃 (モレール)	33,150	別紙あり
	航空賃		
	バス賃		
	船賃		
	タクシー		
	その他	2,268	手土産 3,024×3か所/4人=2,268円
	合計	71,418	
備考			

※100 km未満の距離における特急利用、タクシー利用の理由は備考欄に記入。

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入の上、押印してください。

個人支給の場合、会派名(無会派は記入不要)、議員名を記入の上、押印してください。

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

令和7年 2月10日

三田市議会議長 福田 秀章 様

本会派（私）は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	市民とともに	代表者	
		議員名	大西 憲司
派遣者氏名	肥後淳三、山崎丈、橋本維文、大西憲司		
視察先及び調査事項 (調査目的)	① <u>千葉県木更津市役所 (木更津市富士見 1-2-1)</u> オーガニックなまちづくりと学校給食への取組みについて ① <u>千葉県大網白里市市役所 (大網白里市大網 115-2)</u> デジタル博物館について ② <u>千葉県匝瑳市役所 (匝瑳市八日市場ハ 793-2)</u> ゼロカーボンシティの取組み (ソーラーシェアリングの取組み)		
日 時	2025年 1月 14日 (火曜日) ~ 2025年 1月 16日 (木曜日)		
視察先対応者	① 千葉県木更津市役所 : 議会事務局 (司会) 前田 様 ② 大網白里市市役所 : 議会事務局 事務局長 岡部 一男 様 ③ 千葉県匝瑳市役所 : 市議会 (司会) 川島 誠二 様		
(調査結果の概要及び所見) 別紙でも可 ・ 調査結果及び所見は、別紙 1 : 木更津市、 別紙 2 : 大網白里市、 別紙 3 : 匝瑳市 に添付しています。			

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入の上、押印してください。

個人支給の場合、会派名（無会派は記入不要）、議員名を記入の上、押印してください。

別紙1 木更津市視察報告

視察先	千葉県木更津市
視察日時	令和7年1月15日 10:00～11:30
視察内容	オーガニックなまちづくりと学校給食への取組みについて

木更津市概要

人口：約137000人 面積：約138.9km²

東京湾アクアラインの開通で都心から約1時間、成田空港からも約1時間の距離であり、都心に一番近い田舎。

視察内容

(1)「オーガニックなまちづくり」と「きさらづ地域循環共生圏」の創造に向けた取組について

-企画部オーガニックシティ推進課-

2016年(平成28年)3月市議会定例会において渡辺市長が「オーガニックなまちづくり」を掲げる

「Kisarazu Organic City」が目指す3つのまちの姿

循環：市民が心豊かに健やかに生活できる、清らかな空・山・川・海を守り育む健全なまち

共生：人や企業の多様なあり方・暮らし方をそれぞれが認め合う自由で生きやすいまち

自立：未来に配慮した持続可能なまち

「オーガニックなまちづくり」の基本理念

①地域、社会、環境等に配慮し、主体的に行動しようとする人を育むこと。

②自然と共に発展する持続可能なまちの基盤を整備すること。

③多様なあり方を認め合い、支え合う、自立した地域社会の仕組みを構築すること。

オーガニックなまちづくりアクションプランを平成28年から第一期、令和2年から第二期、令和6年から第三期として進めている。オーガニックなまちづくりを地域一体となって推進するため、地域の産・官・学・メディア・各種団体により「木更津オーガニックシティプロジェクト推進協議会」を設立している。

オーガニックアクション宣言企業として92の企業が認定を受け、「KISARAZU ORGANIC CITY FESTIVAL」の開催やセミナーを通して広く市民にも普及している。

また、有機米の給食提供だけでなく、電子地域通貨の普及や、有害鳥獣対策の食肉処理場の整備、資源循環の促進、再生可能エネルギーの導入などに取り組んでいる。

(2)木更津市の学校給食

-教育委員会 教育部 学校給食課-

キャッチフレーズ 「～いきる つながる 食育のチカラ～」

スローガン 「～地域とつながる 学校給食～」

調理食数：全30校 約11520食 事業費：令和6年度 1018万円(市内産コシヒカリと有機米の差額を市で補填)

有機米提供状況：令和5年度 83日有機米実施/134回米飯給食 令和6年度は96日を予定

その他の主な事業：第3子以降給食費無償化(県の補助1/2)、地産地消の推進など

生産者の顔が見える給食：試食会として生産者と寄付者の給食参観を年2回実施

(3)きさらづ学校給食米

-木更津市有機農業推進協議会-

有機米給食に取り組むこととなった経緯：首長の強い意向・トップマネジメント(2018年10月)

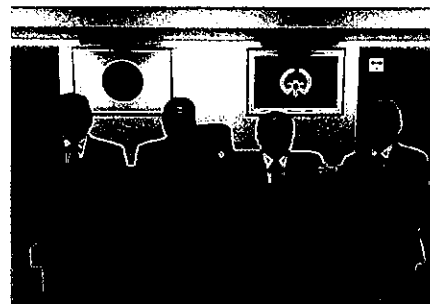
NPO法人民間稲作研究所の稲葉先生に地域農業者向けのフォーラムを実施(2019年2月)

機を逸せず専門家の栽培指導のもと、上記フォーラム参加者から5名の協力でスタート(2019年3月)

令和元年度は生産者5人(給食3日分)から、令和5年度には、生産者16名(給食96日分)を増産し提供。

所感

有機米の給食提供は市長の熱い思いで、市と地域が一体となって推進してこられたことがよくわかった。また、無農薬だが、有機JAS認定を受けるのが難しい米も給食に取り入れるなど、有機米の給食提供が目的ではなく、子ども達に安全・安心な食を提供するという目的のために柔軟に取り組まれており非常に共感した。また、子ども達の有機米の生産体験や、生産者の給食参観など、顔が見える生産にも取り組まれており子ども達の食育、生産者のモチベーションづくりなどに非常に有効だと考えます。是非三田市でも、有機農業の推進だけでなく、食育の機会をつくれるよう取り組んでいきたい。



木更津市議会議場

別紙2 大網白里市視察報告

視察先	千葉県大網白里市
視察日時	2025年1月15日 14:00～15:30
視察内容	デジタル博物館について

大網白里市概要

人口：約47000人 面積：約58km²

視察内容

(1)大網白里市デジタル博物館について -教育委員会 生涯学習課 副主査 武田様(学芸員)-

コンセプト：館を持たない自治体が提案する本格的デジタル博物館

博物館の役割

「収集」：情報の集約

「保存」：現状の記録・保存

「調査・研究」：情報の整理と再分類・ストーリー化

「展示」：情報の発信・公開

機能等の紹介

石器や土器などの立体物の3D化

書や絵画などの高精細画像での公開

文化財巡りコースの位置情報(GPS)連携

くずし字と翻刻文の重ね表示

過去の地図と現代の地図の重ね表示

大網白里町史などの過去の刊行物の全文検索

郷土芸能の動画での記録保存と過去音声の再現



「大網白里市デジタル博物館」トップページ
(出所：大網白里市デジタル博物館)

(2)デジタル博物館の登録博物館認定について -教育委員会 生涯学習課 副主査 武田様(学芸員)-

平成23年4月 「大網白里町第5次総合計画」に「インターネット活用のデジタル博物館づくりを推進します」の記載

平成28年2月 デジタル博物館公開の企画・立案を開始

平成28年9月 公益財団法人図書館振興財団から2120万円の助成を受ける。

平成30年2月 デジタル博物館を公開（第1次公開）

平成31年3月 一般財団法人自治総合センターから200万円の助成を受ける。
美術品、民俗資料、地図等のコンテンツを追加（第2次公開）

令和元年11月 公益財団法人図書館振興財団から 390万円の助成を受ける。

令和2年3月 郷土芸能記録保存映像のコンテンツを追加（第3次公開）

令和3年3月 一般財団法人自治総合センターから280万円の助成を受ける。

令和4年3月 指定文化財、古文書、動画のコンテンツを追加（第4次公開）

令和4年5月～8月 クラウドファンディングで39.3万円を受ける。

令和5年3月 子ども考古学教室のコンテンツを追加（第5次公開）

令和6年3月 登録博物館に認定（全国初）

所感

デジタル博物館のサイト自体も非常に見やすく、遺物や美術品だけでなく、市の歴史も学べるようになっており、市民のシビックプライドの醸成にも役立っており、素晴らしいと感じた。また、教育や観光にも使用されており、特に教育ではデジタルで興味をもってもらい、実物も使用して子ども達への勉強に役立っていた。三田市も地域としての歴史は古く、子ども達や市民の教育やシビックプライドの醸成に多に貢献できると考える。



別紙3 匝瑳市視察報告

視察先	千葉県匝瑳市
視察日時	2025年1月16日 10:00～11:30
視察内容	ゼロカーボンシティの取組み（ソーラーシェアリングの取組み）

大網白里市概要

人口：約33000人 面積：約101km²

視察内容

(1)匝瑳市の脱炭素に向けた取組 -匝瑳市 ゼロカーボン推進課 主査補 伊藤様-

営農型太陽光発電とは

- ・営農型太陽光発電とは、一時転用許可を受け、農地に簡易な構造でかつ容易に撤去できる支柱を立て上部空間に太陽光を電気に変換する設備を設置し、営農を継続しながら発電を行う事業。
- ・作物の販売収入に加え、発電電力の自家利用等による農業経営の更なる改善が期待できる取組手法。

農業と地域を支えるソーラーシェアリングとして、農家には8万円/10aの農業支援、地域には村づくり基金として年間400万円の支援を実施している。

農業：安定した農業経営の実現、魅力ある農業、有機栽培など新たな農業へのチャレンジ、新規就農の拡大、耕作放棄地の解消

地域：耕作放棄地の再生、地域の環境保全活動、地域の活性化・振興、新規就農者や子どもたちへの支援
自然を破壊してつくる「メガソーラー」の対極にある自然と共存するソーラー発電

上記を実現して、持続可能な社会に貢献している。

(2)共に歩むソーラーシェアリング -市民エネルギーちば株式会社 椿様-

元々、開畑地区は山を削った畑であることから痩せていて水はけが悪く野菜などの栽培は難しい。未完理地や耕作放棄地が増加、また牛や豚の糞の捨て場に土壌汚染や不法投棄による環境問題もあった。

地域の市民が中心となって事業を展開、現在では耕作放棄地も減少し、畑の総面積：15ha、年間総発電量：8300Mwhとなっており、1900世帯の年間使用量の電力を供給している。

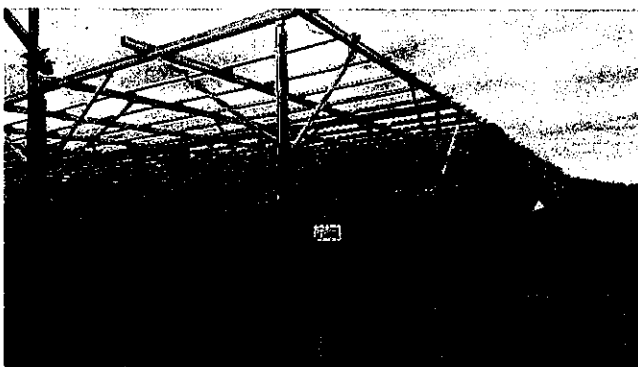
現状は、大豆や麦の栽培が中心だが、稲作とのソーラーシェアリングも実証実験を実施する予定。

また、太陽光セルの配置の研究や、ペロブスカイト太陽電池も共同で実証実験を進めている。

ペロブスカイト太陽電池は発電量も上がることに加え、国産のため期待も大きい。

ソーラーシェアリングのパネルは細いため、風に強く、積雪にも強い。

災害時には地域の非常電源として供給している。



所感

山を切り開く「メガソーラー」ではないクリーンエネルギー、そして就農者や地域への支援、また災害時の非常電源など、持続可能な社会の構築への貢献はもちろん、三田市が抱える農業への問題(耕作放棄地の増加、就農者の高齢化、新規就農者の不足)の解決に期待がある。また、支柱を利用した鳥獣害対策も可能と考えるが、最大の問題点は初期費用が高額になることで、昨今の資機材や人件費の高騰も影響が大きい。

初期費用も含めて、三田市でもソーラーシェアリングを広められないか検討していきたい。